

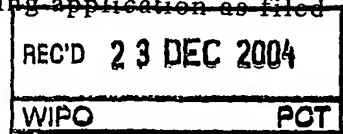
日本国特許庁  
JAPAN PATENT OFFICE

04.11.2004

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出願年月日  
Date of Application: 2003年11月19日



出願番号  
Application Number: 特願2003-389371  
[ST. 10/C]: [JP2003-389371]

出願人  
Applicant(s): 株式会社吉野工業所  
ザ プロクター アンド ギャンブル カンパニー

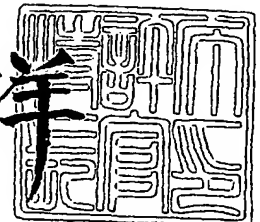
Best Available Copy

PRIORITY DOCUMENT  
SUBMITTED OR TRANSMITTED IN  
COMPLIANCE WITH  
RULE 17.1(a) OR (b)

2004年12月13日

特許庁長官  
Commissioner,  
Japan Patent Office

小川 洋



【書類名】 特許願  
【整理番号】 03-10-02  
【提出日】 平成15年11月19日  
【あて先】 特許庁長官殿  
【国際特許分類】 A45D 33/00  
B65D 1/22

【発明者】  
【住所又は居所】 大阪府茨木市宇野辺 1-6-9 株式会社吉野工業所大阪工場内  
【氏名】 神村 千秋

【発明者】  
【住所又は居所】 大阪府茨木市宇野辺 1-6-9 株式会社吉野工業所大阪工場内  
【氏名】 荒井 次男

【特許出願人】  
【識別番号】 000006909  
【氏名又は名称】 株式会社 吉野工業所

【代理人】  
【識別番号】 100076598  
【弁理士】  
【氏名又は名称】 渡邊 一豊  
【電話番号】 03-3382-6771

【手数料の表示】  
【予納台帳番号】 009162  
【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】  
【物件名】 特許請求の範囲 1  
【物件名】 明細書 1  
【物件名】 図面 1  
【物件名】 要約書 1

**【書類名】 特許請求の範囲****【請求項 1】**

上端開口縁に外鍔状の鍔片(23)を設けた有底短筒形状に形成され、化粧料(K)を収容した中皿(21)を、前記鍔片(23)を上端面上に載置させて、収納筒(3)内に収納保持する本体(2)と、頂壁(10)の下面に、リング状の軟質弾性材製のパッキン(16)を抱え込んだ構成で離脱不能に遊びのある状態で組付け保持し、前記本体(2)に対して被嵌状に着脱自在に螺合組付きして、前記鍔片(23)に対するパッキン(16)の密な弾接により、前記中皿(21)を密閉するキャップ体(9)と、から構成され、前記本体(2)とキャップ体(9)との少なくとも一方に、他方側に突き当たって、前記キャップ体(9)の本体(2)に対する螺合組付きが完了する位置を、前記パッキン(16)の弾接変形を弾性変形範囲内に規制する位置に設定する突き当たり片(11)を設けて成るレフィル容器。

**【請求項 2】**

パッキン(16)の成形材料である軟質弾性材を、ゴムとした請求項 1 記載のレフィル容器。

**【請求項 3】**

本体(2)を、収納筒(3)と、キャップ体(9)と螺合する螺筒(7)との、上端間を連結した二重筒構造とし、前記螺筒(7)の下端に脚筒片(8)を設けて構成した請求項 1 または 2 記載のレフィル容器。

**【請求項 4】**

頂壁(10)の下面に、短筒片状に垂下設した突き当たり片(11)を、本体(2)に収納保持された中皿(21)の鍔片(23)の上面に突き当たる構成とした請求項 1、2 または 4 記載のレフィル容器。

**【請求項 5】**

突き当たり片(11)を、本体(2)の上端面に突き当たる構成とした請求項 1、2 または 3 記載のレフィル容器。

**【請求項 6】**

鍔片(23)に密に弾接するリング状の主体部(17)と、該主体部(17)の内側に位置して、キャップ体(9)への組付き部分となるリング状の嵌り込み部(18)とから構成したパッキン(16)を、径方向に遊びを持った状態で、頂壁(13)と、該頂壁(13)に組付け固定されるパッキン押え(13)との間に、前記嵌り込み部(8)を位置させて離脱不能に組付け保持する請求項 1、2、3、4 または 5 記載のレフィル容器。

【書類名】明細書

【発明の名称】レフィル容器

【技術分野】

【0001】

本発明は、化粧料を収容保持した、交換可能な中皿を、密に収納保持するレフィル容器に関するものである。

【背景技術】

【0002】

粉末化粧料や固形化粧料等の化粧料は、中皿に収容された状態でコンパクト容器に収納されるが、この化粧料を収容した中皿を、コンパクト容器に対して着脱自在とし、これにより経済性および利便性を高めたものが多用されている。

【0003】

この中皿を着脱自在としたコンパクト容器を、有効に使用するに際しては、交換用の中皿を収容保持する、専用のレフィル容器を利用するのが有利である。

【0004】

このレフィル容器としては、蓋体と本体とを、嵌合係止自在となるように構成し、蓋体と本体のいずれか一方に凹陷状の指掛け部を形成したものがあ

る。  
【特許文献1】特開平11-276240号公報

【0005】

また、交換用の中皿に収容されている化粧料の乾燥、吸湿、さらには含有する芳香剤等の揮発成分の飛散を防止すべく、中皿を密閉する必要があるが、中皿の密閉を達成すべく、中皿の上端開口部を、易剥離性のシールフィルムで密閉したものがあ

る。  
【特許文献2】特開2003-210245号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0006】

しかしながら、特許文献1に開示された従来技術にあつては、レフィル容器自体に、収納した中皿を密閉する能力がないので、収容できる中皿は、特許文献2に開示され中皿のように、それ自体が密閉されている中皿に限定されてしまう、と云う問題があつた。

【0007】

また、特許文献1と特許文献2とを組合わせた従来技術にあつては、シールフィルムの剥離により中皿を開封すると、中皿を密閉状態に復帰させることが不可能となるので、中皿を一旦開封した後は、特許文献1のレフィル容器は全くの不要物となり、経済性に劣る、と云う問題があつた。

【0008】

さらに、中皿を一旦開封した後は、この中皿は、コンパクト容器に組付けられていない限り、その再密閉が不可能であるので、使用したい化粧料を替えたい場合には、現在使用している化粧料を使い切るか、現在使用している化粧料を中皿ごと捨てるしかなく、中皿に収容された高価な化粧料の利用状況が、きわめて不便なものとなっている、と云う不満があつた。

【0009】

そこで、本発明は、上記した従来技術における問題点を解消すべく創案されたもので、中皿を確実に安定して密閉した状態で収納保持することを技術的課題とし、もって中皿単体の密閉の有無に関わりなく、中皿に収容された化粧料の品質を安全に維持すると共に、中皿の任意の交換使用を可能とすることを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0010】

上記技術的課題を解決する本発明の内、請求項1記載の発明に手段は、  
上端開口縁に外鍔状の鍔片を設けた有底短筒形状に形成され、化粧料を収容した中皿を、この中皿の鍔片を上端面上に載置させて、収納筒内に収納保持する本体を有すること、

頂壁の下面に、リング状の軟質弾性材製のパッキンを抱え込んだ構成で離脱不能に遊びのある状態で組付け保持し、本体に対して被嵌状に着脱自在に螺合組付きして、中皿の鍔片に対するパッキンの密な弾接により、中皿を密閉するキャップ体を有すること、本体とキャップ体との少なくとも一方に、他方側に突き当たって、キャップ体の本体に対する螺合組付きが完了する位置を、パッキンの弾接変形を弾性変形範囲内に規制する位置に設定する突き当たり片を設けたこと、にある。

**【0011】**

この請求項1記載の発明にあつては、中皿を収納保持した本体に対してキャップ体を螺合組付けすると、キャップ体に組付けられたパッキンが、中皿の鍔片に密に弾接し、これにより中皿は、キャップ体により密閉され、この状態が保持される。

**【0012】**

このように、本発明のレフィル容器は、中皿を、新品、使用中の区別なく、密閉して収納保持することができるので、交換用中皿の収納容器として機能させることができ、コンパクト容器に組付けて携帯する中皿を、所望するものを選択して交換使用することが可能となる。

**【0013】**

また、キャップ体に対するパッキンの組付けは、接着等による不動な固定組付けではなく、パッキンを抱え込んだ構成で遊びのある状態で組付け保持するものであるので、パッキンはキャップ体に対して、シール機能を発揮する箇所から外れることなく、ズレ変位可能に組付くことになる。

**【0014】**

このため、キャップ体を本体に螺合組付けする際に、本体に対するキャップ体の相対回動により、パッキンが捩れ変形するが、キャップ体に対してパッキンがズレ変位可能に組付いているので、パッキンに発生しようとした捩れ変形は、パッキン自体の弾力によるズレ変位により、直ちに消滅する。

**【0015】**

このように、本体に対するキャップ体の螺合組付きに際して、パッキンに捩れ変形が発生するのを防止することができるので、パッキンに捩れ変形が発生して、このパッキンのシール機能を損なうと云うことがなく、これによりパッキンは、安定して確実なシール作用を発揮する。

**【0016】**

さらに、本体とキャップ体との間には、キャップ体の本体に対する螺合組付きが完了する位置を、本体とキャップ体との螺合組付きに伴うパッキンの弾性変形を、弾性変形範囲内に規制する位置に設定する突き当たり片が設けられているので、弾性変形範囲を越えたパッキンの変形を発生させる、キャップ体の締め込み過多を防止することができる。

**【0017】**

請求項2記載の発明は、請求項1記載の発明の構成に、パッキンの成形材料である軟質弾性材を、ゴムとしたこと、を加えたものである。

**【0018】**

この請求項2記載の発明にあつては、本体とキャップ体との相対回動により捩れ変形が発生し易いゴム製パッキンを、捩れ変形を発生させることなく使用することが可能であるので、ゴムの持つ高いシール機能をそのまま有効に発揮させることができる。

**【0019】**

請求項3記載の発明は、請求項1または2記載の発明の構成に、本体を、収納筒と、キャップ体と螺合する螺筒との、上端間を連結した二重筒構造とし、螺筒の下端に脚筒片を設けて構成したこと、を加えたものである。

**【0020】**

この請求項3記載の発明にあつては、本体を、中皿を組付け保持する部分と、キャップ体との螺合組付き部分とに分けて構成したので、両部分を無理なく構成することが可能と

なり、またキャップ体との組付き部分を構成する螺筒に「座」として機能する脚筒片を設けたので、中皿収納部分を構成する収納筒が、直接載置面に突き当たることがなく、その分、収納した中皿に対する外部からの衝撃の作用する機会を少なくすることになる。

【0021】

請求項4記載の発明は、請求項1、2または3記載の発明の構成に、キャップ体の頂壁の下面に、短筒片状に垂下設した突き当たり片を、本体に収納保持された中皿の鍔片の上面に突き当たる構成としたこと、を加えたものである。

【0022】

この請求項4記載の発明にあつては、突き当たり片をキャップ体に設けたので、この突き当たり片を本体側に設けることによる不都合、例えば中皿の収納保持および出し入れの邪魔になる、と云う不都合の発生が全くなく、またパッキンに近接して位置することが可能であるので、規制作用を正確にそして確実に発揮することになり、また本体に収納保持された中皿の鍔片に、パッキンが密に弾接すると共に、突き当たり片が突き当たるので、突き当たり片が鍔片に突き当たった際における、パッキンの鍔片に対する弾接程度が常に一定したものとなり、これにより突き当たり片のパッキンに対する規制作用が、常に正確なものとなる。

【0023】

請求項5記載の発明は、請求項1、2または3記載の発明の構成に、キャップ体に設けた突き当たり片を、本体の上端面に突き当たる構成としたこと、を加えたものである。

【0024】

この請求項5記載の発明にあつては、中皿の鍔片の幅を小さくすることが可能であり、またキャップ体から強大な締め付け力が中皿に作用しないので、中皿のより安全な収納保持を得ることができる。

【0025】

請求項6記載の発明は、請求項1、2、3、4または5記載の発明の構成に、中皿の鍔片に密に弾接するリング状の主体部と、この主体部の内側に位置して、キャップ体への組付き部分となるリング状の嵌り込み部とから構成したパッキンを、径方向に遊びを持った状態で、キャップ体の頂壁と、この頂壁に組付け固定されるパッキン押えとの間に、パッキンの嵌り込み部を位置させて離脱不能に組付け保持すること、を加えたものである。

【0026】

この請求項6記載の発明にあつては、パッキンは、径方向に遊びを持った状態で、主体部と区画された嵌り込み部を、組付け専用部材であるパッキン押えと、キャップ体の頂壁との間に、位置させて組付け保持されるので、パッキンのキャップ体への組付き構成は、抱え込んだ構成となり、これによりキャップ体に対するパッキンの組付きは、周方向および径方向にズレ変位可能なものとなり、パッキンが振れ変形状態となるのを防止する。

【0027】

また、パッキン押えは、パッキンの嵌り込み部に対向して位置し、パッキンの主体部からは離れて位置するものであるので、パッキン押えに影響されることなく、パッキンの主体部のシール機能が支障なく発揮できるようにすることは容易である。

【発明の効果】

【0028】

本発明は、上記した構成となっているので、以下に示す効果を奏する。

請求項1記載の発明にあつては、中皿を、新品、使用中の区別なく、密閉して収納保持することができるので、一つのコンパクト容器に組付けて携帯使用中皿を、所望するものに選択交換することが可能となり、これにより高価なコンパクト容器の使用状況を、より有効なものとすることができる。

【0029】

また、キャップ体に対するパッキンの組付けは、抱え込んだ構成での遊びのある組付けであるので、パッキンはキャップ体に対してズレ変位可能に組付くことになるので、キャップ体を本体に螺合組付けする際に、パッキンに振れ変形が発生しようとしても、この振

れ変形は、パッキン自体の弾力によるズレ変位により、直ちに消滅するので、パッキンのシール機能が、捩れ変形により劣化すると云う不都合の発生を確実に阻止することができる。これによりシール機能を安定して発揮させることができる。

**【0030】**

さらに、本体とキャップ体との間には突き当たり片が設けられているので、弾性変形範囲を越えたパッキンの変形を発生させる、キャップ体の締め込み過多を防止することができる。これによりパッキンに、不正な永久変形を発生させるとか、損傷を与える等して、シール機能を低下させることがない。

**【0031】**

請求項2記載の発明にあつては、ゴムの持つ高いシール機能をそのまま発揮させることができる。

**【0032】**

請求項3記載の発明にあつては、本体の、中皿を組付け保持する部分と、キャップ体との螺合組付き部分とを無理なく構成することが可能となり、これにより本体の成形が容易となり、また螺筒に脚筒片を設けたので、収納した中皿に対する外部からの衝撃の作用する機会を少なくすることができ、これにより収納した化粧料の安全性を高めることができる。

**【0033】**

請求項4記載の発明にあつては、突き当たり片をキャップ体に設けたので、この突き当たり片が中皿の収納保持および出し入れの邪魔になる、と云う不都合の発生が全くなく、中皿の取扱い性の低下を防止し、またパッキンに近接して位置することが可能であるので、規制作用を正確にそして確実に発揮することになり、これによりパッキンを安全に保護することになり、また本体に収納保持された中皿の鍔片に、パッキンが密に弾接すると共に、突き当たり片が突き当たるので、突き当たり片のパッキンに対する規制作用が、常に正確なものとなり、これにより突き当たり片のパッキンに対する規制作用の程度の設定が容易となる。

**【0034】**

請求項5記載の発明にあつては、中皿の鍔片の幅を小さくすることが可能であるので、中皿の構造を簡単化させることができ、またキャップ体から強大な締め付け力が中皿に作用しないので、中皿が不正に歪み変形して、収容した化粧料に割れ等の不都合の発生がなく、化粧料をより安全に収納保持することができる。

**【0035】**

請求項6記載の発明にあつては、パッキンは、径方向に遊びを持った状態で、主体部と区画された嵌り込み部で、キャップ体に、抱え込んだ構成で組付けられるので、キャップ体に対するパッキンの組付きを、周方向および径方向にズレ変位可能で、パッキンが捩れ変形状態となるのを防止することのできる状態とすることができる。

**【発明を実施するための最良の形態】****【0036】**

以下、本発明の実施形態を、図面を参照しながら説明する。

本発明は、図4に示すように、化粧料Kを収容保持して、コンパクト容器25に着脱自在に組付けられる金属薄板製の中皿21を、密に収納保持するレフィル容器1に関するものである。

**【0037】**

この中皿21が組付けられるコンパクト容器25（以下、図4参照）は、有底短筒状をした本体部26と、この本体部26に後端部同士を螺番結合して開閉回動可能に組付いた蓋体部29と、本体部26に内装されて、中皿21の組付け収納空間を形成する中枠28とから構成されている。

**【0038】**

コンパクト容器25の本体部26の底壁には、組付けた中皿21を棒片（図示省略）で突き上げて、離脱させるための突き出し孔27が開設されており、また蓋体部29の下面

には、収納保持した中皿 21 の鍔片 23 に密に弾接して、この中皿 21 を密閉するパッキン体 30 が組付けられている。

#### 【0039】

この中皿 21 のコンパクト容器 25 に対する組付きは、中皿 21 の有底筒状の胴筒を、鍔片 23 が中枠 28 の上端面に突き当たるので、中枠 28 内に挿入組付けした状態で、中皿 21 の胴筒の外周面に凹設された係止凹部 22 に、中枠 28 の内周面に設けた係止機能部を係止させて達成される。

#### 【0040】

それゆえ、コンパクト容器 25 から中皿 21 を離脱させるには、蓋体部 29 を開いた状態で、突き出し孔 27 から棒片により中皿 21 を突き上げ、これにより係止凹部 22 に対する係止を強引に解除して、中皿 21 を上方に押上げて達成する。

#### 【0041】

図 1 は、上記したようにしてコンパクト容器 25 に着脱される中皿 21 を、着脱自在に密閉収納する、本発明によるレフィル容器 1 の一実施例を示すもので、レフィル容器 1 は、中皿 21 を収納保持する本体 2 と、この本体 2 に着脱自在に螺合組付きして、中皿 21 を密閉するキャップ体 9 とから構成されている。

#### 【0042】

本体 2 は、中皿 21 の胴筒を嵌入させて収納する、底板 5 を有する有底円筒状の収納筒 3 と、外周面に螺条を刻設し、収納筒 3 と上端間を連結して二重筒体構造を形成する螺筒 7 と、この螺筒 7 の下端に、外鍔状のフランジ片を介して垂下連設された、「座」を形成する脚筒片 8 とから構成されている。

#### 【0043】

収納筒 3 は、その内周面に、中皿 21 が、鍔片 23 を本体 2 の上端面に載置させた組付きの完了した位置で、中皿 21 の横溝状の係止凹部 22 と係止する横条状の係止片 4 を設けており、また底板 5 の周端部に偏った個所に、指先の差込が可能な大きさの窓孔 6 を開設している。

#### 【0044】

収納筒 3 と螺筒 7 の上端間を連結する連結部分の上面、すなわち本体 2 の上端面は、中皿 21 の鍔片 23 が安定して載置する平坦面となっており、また脚筒片 8 の下端面は、底板 5 の下面よりも下位に位置し、本体 2 を床面上に載置した際に、底板 5 が床面に突き当たることがないようにしている。

#### 【0045】

キャップ体 9 は、平円板状の頂壁 10 の周端縁から、本体 2 の螺筒 7 に螺合する螺条を内周面に刻設した円筒形状の周壁 12 を垂下連設した有頂円筒形状をしていて、周端部に短円筒状の突き当たり片 11 を垂下設した頂壁 10 の下面には、パッキン押え 13 およびパッキン 16 が組付けられている。

#### 【0046】

パッキン押え 13 は、周端部分を、キャップ体 9 にパッキン 16 を抱え込み状に遊びを有する状態で組付け保持する支え部 14 とし、残部である中央部分を、多数の小孔を開設して構成される滴下防止部 15 とし、この滴下防止部 15 および支え部 14 との間に隙間を形成した状態で、頂壁 10 に、超音波溶着（図 2 参照）により、またはアンダーカット結合（図 3 参照）により組付け固定される。

#### 【0047】

ゴム製の、全体がリング状となったパッキン 16 は、シール機能を発揮する外側の主体部 17 と、組付け機能部を形成する内側の嵌り込み部 18 とに区画されており、肉厚となった主体部 17 には、その下面に寸法の大きな主シール条 19 が、そして上面に副シール条 20 が、それぞれ突周設されており、やや肉薄に成形された嵌り込み部 18 は、単純な平リング円板状となっている。

#### 【0048】

このパッキン 16 は、キャップ体 9 に、径方向に遊びを持った状態で組付けられるが、



この径方向の遊び範囲の制限は、図 2 の場合、外側に位置した突き当たり片 11 と、内側に位置したパッキン押え 13 を取付けるための突片とにより達成し、図 3 の場合、外側に位置した突き当たり片 11 と、内側に位置したパッキン押え 13 の突片とにより達成している。

#### 【0049】

このように、パッキン 16 は、径方向に遊びを持った状態で、嵌り込み部 18 全体を、頂壁 10 と支え部 14 との間で軽く挟まれて、キャップ体 9 に組付け保持されるので、その組付き状態は抱え込み状となり、キャップ体 9 に対して、周方向および径方向にズレ変位可能に組付くことになる。

#### 【0050】

図 2 の実施例の突き当たり片 11 は、本体 2 に組付け保持された中皿 21 の鍔片 23、すなわちパッキン 16 が密に弾接する鍔片 23 に突き当たることにより、本体 2 に対するキャップ体 9 の螺合組付きが完了する位置を設定するものとなっているので、中皿 21 の本体 2 に対する組付き状態の差異、例えば鍔片 23 の本体 2 上端面からの浮き上がり程度の差異に関わりなく、キャップ体 9 を本体 2 に螺合組付きが完了する位置まで組付けた際の、鍔片 23 に対するパッキン 16 の弾接力が常に一定した値となる。

#### 【0051】

これに対して、図 3 は、突き当たり片 11 の他の実施例を示すもので、突き当たり片 11 は、中皿 21 の鍔片 23 を介することなく、本体 2 の上端面に直接突き当たるものとなっているので、キャップ体 9 の本体 2 に対する螺合組付きが強固で安定したものとなる。

#### 【0052】

中皿 21 のレフィル容器 1 からの離脱は、本体 2 からキャップ体 9 を螺脱させた状態で、窓孔 6 から指先を差し込んで中皿 21 を押し上げて、係止片 4 と係止凹部 22 との係止を解除させて達成される。

#### 【0053】

この際、窓孔 6 が周端側に偏って位置しているので、指先からの押し上げ力は、係止片 4 と係止凹部 22 とが係止している、中皿 21 の周端部近くに作用し、これにより指先による中皿 21 の取り出しを、無理なく達成することができる。

#### 【0054】

なお、中皿 21 の底壁に突条設されたズレ防止条 24 は、中皿 21 に対する化粧料 K の収納固定を安定化させるためのものである。

#### 【図面の簡単な説明】

#### 【0055】

【図 1】本発明の一実施形態の分解状態を示す、縦断面図である。

【図 2】図 1 に示した実施形態の組立てた状態を示す、要部拡大縦断面図である。

【図 3】本発明の他の実施形態の組立てた状態を示す、要部拡大縦断面図である。

【図 4】コンパクト容器の中皿組付け状態を示す、縦断側面図である。

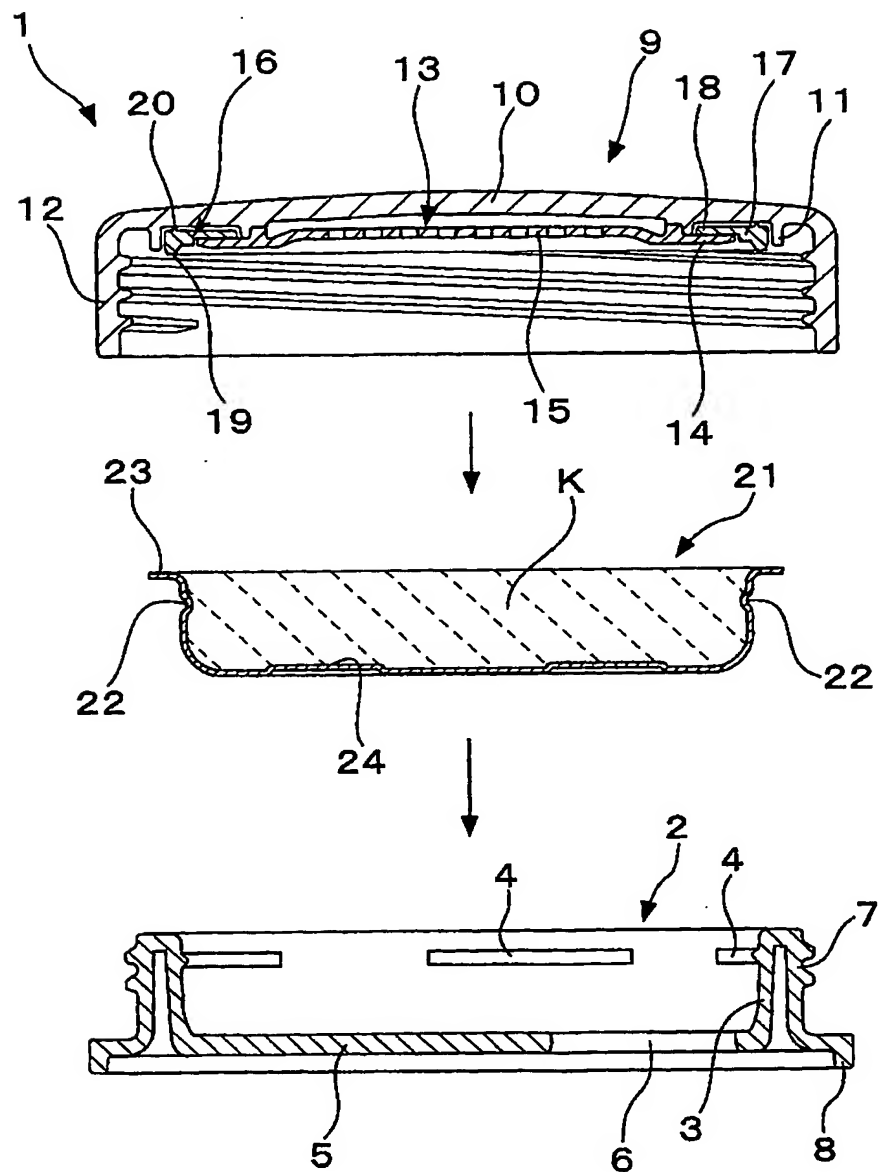
#### 【符号の説明】

#### 【0056】

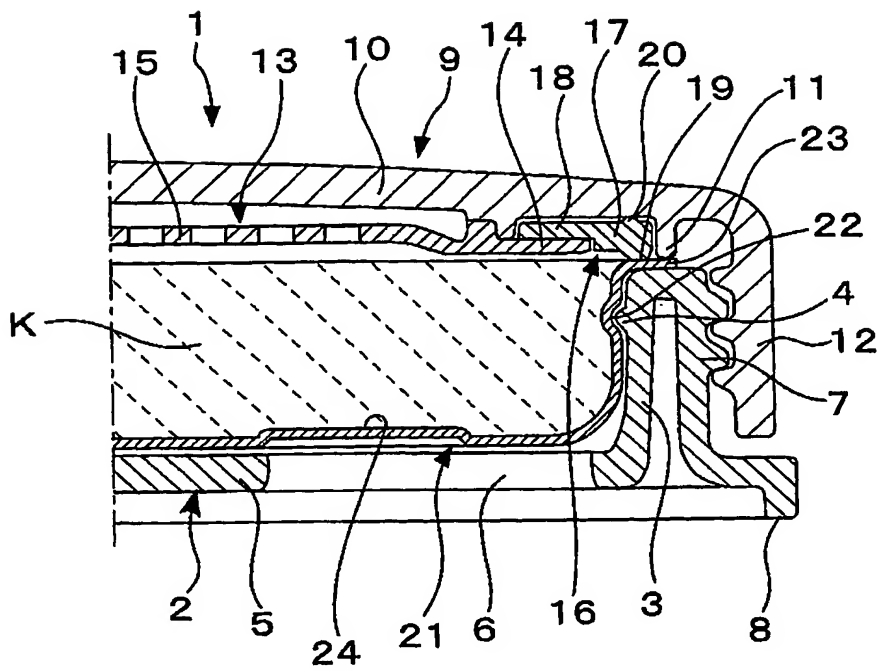
- |    |   |        |
|----|---|--------|
| 1  | ; | レフィル容器 |
| 2  | ; | 本体     |
| 3  | ; | 収納筒    |
| 4  | ; | 係止片    |
| 5  | ; | 底板     |
| 6  | ; | 窓孔     |
| 7  | ; | 螺筒     |
| 8  | ; | 脚筒片    |
| 9  | ; | キャップ体  |
| 10 | ; | 頂壁     |
| 11 | ; | 突き当たり片 |

1 2	；	周壁
1 3	；	パッキン押え
1 4	；	支え部
1 5	；	滴下防止部
1 6	；	パッキン
1 7	；	主体部
1 8	；	嵌り込み部
1 9	；	主シール部
2 0	；	副シール部
2 1	；	中皿
2 2	；	係止凹部
2 3	；	鍔片
2 4	；	ズレ防止条
2 5	；	コンパクト容器
2 6	；	本体部
2 7	；	突き出し孔
2 8	；	中枠
2 9	；	蓋体部
3 0	；	パッキン体
K	；	化粧料

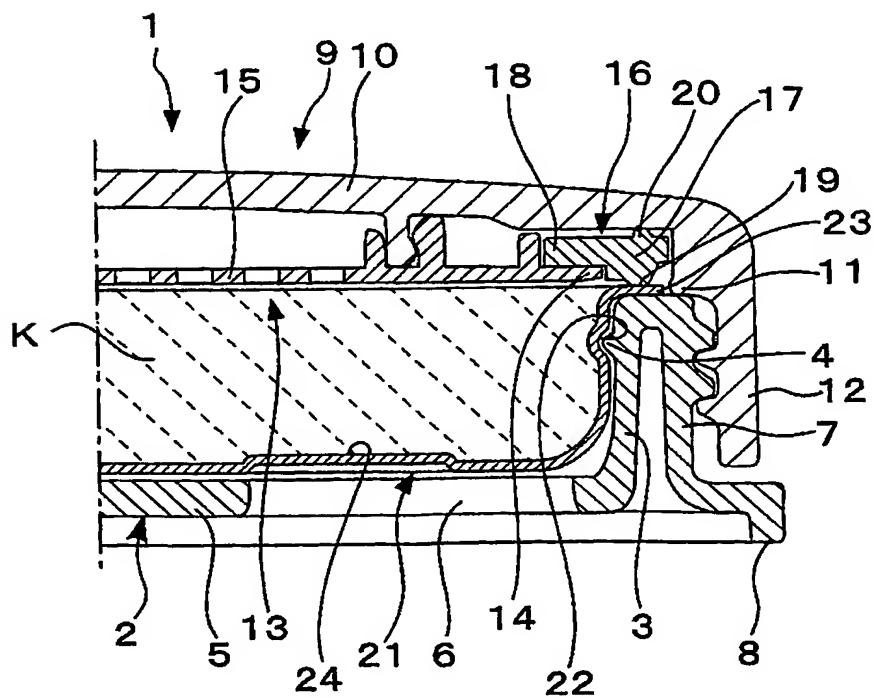
【書類名】 図面  
【図 1】



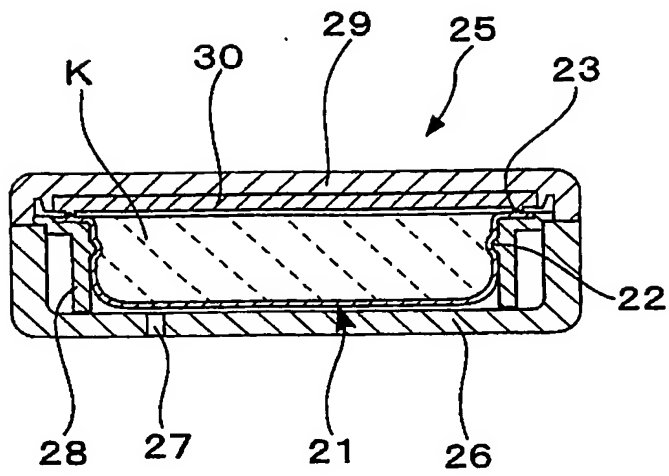
【図 2】



【図 3】



【図 4】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 中皿を確実に安定して密閉した状態で収納保持することにより、中皿単体の密閉の有無に関わりなく、中皿に收容された化粧料の品質を安全に維持すると共に、中皿の任意の交換使用を可能とすることを目的とする。

【解決手段】 中皿 21 を、その鍔片 23 を上端面上に載置させて、収納筒 3 内に収納保持する本体 2 と、リング状の軟質弾性材製のパッキン 16 を抱え込んだ構成で離脱不能に遊びのある状態で組付け保持し、本体 2 に螺合組付きして、鍔片 23 に対するパッキン 16 の密な弾接により、中皿 21 を密閉するキャップ体 9 と、から構成され、キャップ体 9 の本体 2 に対する螺合組付きが完了する位置を、パッキン 16 の弾接変形を弾性変形範囲内に規制する位置に設定する突き当たり片 11 を設けて構成し、パッキン 16 の確実に強固なシール作用を得る。

【選択図】 図 2

## 認定・付加情報

特許出願の番号	特願 2003-389371
受付番号	50301910539
書類名	特許願
担当官	駒崎 利徳 8640
作成日	平成 15 年 12 月 9 日

## &lt;認定情報・付加情報&gt;

## 【特許出願人】

【識別番号】	000006909
【住所又は居所】	東京都江東区大島 3 丁目 2 番 6 号
【氏名又は名称】	株式会社吉野工業所

## 【代理人】

申請人

【識別番号】	100076598
【住所又は居所】	東京都中野区中野 2 丁目 2 5 番 8 号 三波ビル 渡辺内外国特許事務所
【氏名又は名称】	渡辺 一豊

【書類名】 手続補正書  
【提出日】 平成16年 8月20日  
【あて先】 特許庁長官殿  
【事件の表示】  
    【出願番号】 特願2003-389371  
【補正をする者】  
    【識別番号】 000006909  
    【氏名又は名称】 株式会社 吉野工業所  
【代理人】  
    【識別番号】 100076598  
    【弁理士】  
    【氏名又は名称】 渡辺 一豊  
【手続補正1】  
    【補正対象書類名】 特許願  
    【補正対象項目名】 発明者  
    【補正方法】 変更  
    【補正の内容】  
        【発明者】  
        【住所又は居所】 兵庫県神戸市東灘区向洋町中3丁目1-10-2-212  
        【氏名】 古賀 督尉  
        【発明者】  
        【住所又は居所】 大阪府茨木市宇野辺1-6-9 株式会社吉野工業所大阪工場内  
        【氏名】 神村 千秋  
        【発明者】  
        【住所又は居所】 大阪府茨木市宇野辺1-6-9 株式会社吉野工業所大阪工場内  
        【氏名】 荒井 次男  
【その他】 発明者追加の理由について、本発明は、宣誓書により宣誓のとおり、古賀 督尉（住所又は居所 兵庫県神戸市東灘区向洋町中3丁目1-10-2-212）神村 千秋（住所又は居所 大阪府茨木市宇野辺1-6-9 株式会社吉野工業所大阪工場内）荒井 次男（住所又は居所 大阪府茨木市宇野辺1-6-9 株式会社吉野工業所大阪工場内）の3人で行ったものであります。出願人は、出願を急いだため、発明者である古賀 督尉を願書に記載するのを忘れて特許出願をしたものであります。このような事情から古賀 督尉を発明者として追加致したく、ここに発明者の追加を行うものであります。



【書類名】 出願人名義変更届  
【提出日】 平成16年 8月23日  
【あて先】 特許庁長官殿  
【事件の表示】  
    【出願番号】 特願2003-389371  
【承継人】  
    【識別番号】 592043805  
    【氏名又は名称】 ザ、プロクター、エンド、ギャンブル、カンパニー  
    【代表者】 スチーブン、ダブリュー、ミラー  
【承継人代理人】  
    【識別番号】 100076598  
    【弁理士】  
    【氏名又は名称】 渡辺一豊  
【手数料の表示】  
    【予納台帳番号】 009162  
    【納付金額】 4,200円  
【その他】 平成16年8月23日に手続補足書を提出しました。

## 認定・付加情報

特許出願の番号	特願 2003-389371
受付番号	50401410719
書類名	出願人名義変更届
担当官	田村 吉章 9765
作成日	平成16年 9月27日

## &lt;認定情報・付加情報&gt;

## 【承継人】

【識別番号】	590005058
【住所又は居所】	アメリカ合衆国オハイオ州, シンシナティー, ワ ン プロクター アンド ギャンブル プラザ (番地なし)
【氏名又は名称】	ザ プロクター アンド ギャンブル カンパニ ー

## 【承継人代理人】

【識別番号】	申請人 100076598
【住所又は居所】	東京都中野区中野2丁目25番8号 三波ビル 渡辺内外国特許事務所
【氏名又は名称】	渡辺 一豊

特願 2 0 0 3 - 3 8 9 3 7 1

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [ 0 0 0 0 0 6 9 0 9 ]

1. 変更新月日	1 9 9 0 年 8 月 2 3 日
[変更理由]	新規登録
住 所	東京都江東区大島 3 丁目 2 番 6 号
氏 名	株式会社吉野工業所

特願 2003-389371

出願人履歴情報

識別番号 [592043805]

1. 変更年月日 2004年 5月11日  
[変更理由] 識別番号の二重登録による抹消  
[統合先識別番号] 590005058  
住 所 アメリカ合衆国オハイオ州, シンシナティー, ワン プロクタ  
ー アンド ギャンブル プラザ (番地なし)  
氏 名 ザ プロクター アンド ギャンブル カンパニー

特願 2003-389371

出願人履歴情報

識別番号 [590005058]

1. 変更年月日 2004年 5月11日  
[変更理由] 識別番号の二重登録による統合  
[統合元識別番号] 592043805  
住 所 アメリカ合衆国オハイオ州, シンシナティー, ワン プロクタ  
ー アンド ギャンブル プラザ (番地なし)  
氏 名 ザ プロクター アンド ギャンブル カンパニー

**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning  
Operations and is not part of the Official Record**

**BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

☒ BLACK BORDERS

☒ IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES

☒ FADED TEXT OR DRAWING

☒ BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING

☒ SKEWED/SLANTED IMAGES

☒ COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS

☐ GRAY SCALE DOCUMENTS

☐ LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT

☐ REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY

☐ OTHER: \_\_\_\_\_

**IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.**

**As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.**